

ふ.る.る ラボ だ よ り



発行：壬生町教育委員会事務局 〒321-0292 壬生町通町 12-22 町教委 HP
 生涯学習課 TEL 0282-81-1873 / FAX 0282-82-0935
 E-mail : gakusyu@town.mibu.tochigi.jp



●学校と地域の連携モデル事業とは？

この事業は、新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を実現するため、「地域とともにある学校づくり」及び「学校を核とした地域づくり」への支援を一体的に行うことにより、子どもたちの豊かな人間性や主体的に考える態度を育むとともに、子どもの学びを支える地域の教育力の向上を図ることを目的としています。

県教育委員会が実施主体となって、令和2～4年度（三年間）で、県内全市町で実施する予定で、今年度は本町から稲葉小学校がモデル事業実践校に指定されています。

●事業の中心的な活動とは？

「稲葉ふるさと学習」を充実させるために、連携会議^{※1} や地域連携マイスター^{※2}、下都賀教育事務所、町教委等関係機関と連携・協力して、コミュニティ・スクール^{※3}の機能を高める。

- ※1 学校と地域の連携・協働のための目標やビジョンの共有、連携方策を協議する会議
- ※2 学校と地域の連携・協働に知見を有し、県教育委員会が委嘱した方
- ※3 学校と保護者や地域の方がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら、子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地教行法第47条の5）に基づいた仕組み



●「稲葉ふるさと学習」とは？

地域人材や地域の教育資源を活用した社会見学、町めぐり、施設めぐり、町探検、田植え・稲刈りなどの農業体験、論語教育、読み聞かせ、異年齢集団に、生活科・総合的な学習の時間でも継続的・系統的に稲葉地区について探求する内容を加え、関連を図って展開し、絆をつくり、ふるさとに自信と誇りをもち、国際社会で通用する人材としての基盤形成を目指す稲葉小ならではの学習。

●稲葉小学校 モデル事業組織図

コミュニティ・スクール（学校運営協議会） 稲葉小学校

児童・教職員・保護者・家庭・地域住民

連携会議
地域学校協働活動推進員

校長
地域連携教員
地域連携部・学級担任等

PTA 会長
PTA 役員

壬生町地域学校協働活動推進事業研究会
町地域学校協働本部

連携推進会議 支援チーム
地域連携マイスター、他

●第1回連携会議（6月4日開催）

第1回会議では、参加者の自己紹介後、本事業の趣旨を確認したり、今後の連携事業の計画や広報計画などについての協議を行ったりしました。

最後に、地域連携マイスターの^{すずきまさとし}鈴木正俊氏（元壬生中学校長）から今後の方向性やモデル事業実践校としての役割など、指導及び助言をいただきました。



●第2回連携会議（7月2日開催）



第2回会議では、稲葉小学校地域連携事業（稲葉ふるさと学習計画、いちご生産者との連絡調整など）について具体的な協議を行いました。特に、9月から行われる各学年による地域学習では、壬生町ボランティアガイドから各場所の見どころを紹介していただいたり、いちご生産者からいちご作りについて教えていただいたりすることになっています。

●地域学習の主な内容

学年	教科・領域	主な内容
1年	生活科	旧稲葉村役場門柱見学(校内)
2年	生活科	稲葉一里塚見学
3年	総合的な学習	金売り吉次の墓見学 馬頭観世音堂見学
	社会科	稲葉地区いちご生産者見学
4年	総合的な学習	梅林天満宮見学
5年	総合的な学習	市兵衛八幡見学
6年	総合的な学習	親抱きの松
		鯉沼九八郎翁の碑見学

●稲葉小学校地域連携だより

※学校だよりとは別号となる「地域連携だより」を発行しました。初号は、啓発資料として、稲葉地区内全戸配付を行いました。

「地域連携だより」は、稲葉小学校のHPで閲覧できます。☞
(メニュー ⇒ 学校だより)



●職員研修（7月26日開催）

稲葉小学校において、地域連携マイスターの^{すずきまさとし}鈴木正俊氏が講師となり、「これからの学校と地域の在り方」を演題に、教職員に学校と地域の連携推進についての講話を行いました。「学校と地域社会の関係の歴史」、「どうして地域と共にある学校が必要なのか」、「情操教育の充実の必要性」、「家庭教育の重要性」など、これまでの豊富なご経験を交えながらの内容で、改めて、今後の『学校と地域の在り方』について考える有意義な学習機会となりました。

